



大和中ロータリークラブ会報

LET SERVICE LIGHT THE WAY

奉仕の灯で道を照らそう

R.I 会長 James L. Bomar Jr.

第 87 回 例会 1980 年 3 月 13 日 (木) 晴 第 92 号

出席報告

会員数	出席数	出席率	前回の修正
30名	25名	83.33%	100%
欠席者 郡司, 木崎, 高山, 中西, 保田			

芦田会長テーマ 友愛と協調

司会 芦田会長

ビジター

上坂信夫君(東京港南), 山瀬憲吾君(横浜鶴峰)
大矢晴行君, 藤本孝君, 道岸唯一君, 吉利正勝君,
北原敬二君, 村上八郎君, 村田幸大君, 矢口禎男
君.(大和)

○次の3月27日例会は夜間になり, クラブ協議会
になりますのでお忘れなく, 3月27日 pm 6.30

ところ 大和医療センター

○例会後, 理事, 役員会を開催

委員会報告

国際奉仕委員会 土屋副委員長

○前回お知らせ致しました中国留学生の皆さんと
の高速道路見学は4月4日を予定しておりました
が都合で4月18日(金)に変更させていただきます。

親睦活動委員会 古木委員

○本日のお祝い6名の方々です。お誕生日, 竹本
健一君(3月17日), 伊藤英夫君(3月18日)
ご夫人お誕生日, 保田達君 とく子夫人(3月
19日)結婚記念日, 中西功君(3月19日), 創
業記念日, 芦田敬治君(3月15日)入会記念日
有沢昭二君(54年3月22日)。

会長報告

○座間ロータリークラブ10周年記念式典について
のご案内が皆さんのお手元に届いていることと
存じますが, 4月20日(日)午後6.00~9.30 於
座間キャンプ, 出来るだけ多くの方々のご参加
を期待しております。

○第258地区, ガバナー斉藤武幸氏が奉仕の灯掲
げて75年というテーマで日本経済新聞に論説を
投稿されておりますのでそのコピーを回覧いた
します。皆さんご一読下さい。

幹事報告

○次回例会は本来祭日で, 休会ですが, 私達は幸
福にもIGFがその日になって居りますので全
員登録してあります。是非出席して下さい。

本日のプログラム 3月27日

クラブ協議会 IGF を終了して 北砂幹事

次週予定 4月3日

クラブフォーラム「職業奉仕について」寺田伍六君

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か

3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

事務所 : 大和中央1-5-40
及び 大和市商工会館内
例会場 電話0462(63)7926

例会日 : 毎週木曜日12時30分より
会長 : 芦田敬治 副会長 : 佐藤実
幹事 : 北砂富三 会報委員 : 上田・竹之内・郡司

卓話

卓話

「中国訪問を終えて」 辻 国明君

皆さん今日は、去る2月下旬、8日間に亘り、中国国家経済委員会の招請により華国鋒体制下の中国を訪れ、特に北京、上海の实情に接して参りましたので、ご報告を兼ねお話しを進めさせていただきます。

日本から参加した主な顔触れは財団法人、日本ILO協会、労働省、海外技術協力室・官房付国際渉外官、雇用促進事業団技能開発センター、並びに日中平和共存経営者協会の代表・計20名のメンバーで訪れました。

現在、中国はあの4人組の誤った指導による悪夢から目覚め、四つの現代化を速やかに達成する為、自力更生の精神の下、日夜奮闘しております。しかしながらいまわしい長い年月の損失は大きく新しい中国の建設も思う様にはいかず、当面は先進諸外国、特に日本、アメリカの協力援助が望まれ、最も重要な目標として、**技術者の育成と科学技術の導入**に力を入れているのです。

今回の訪中団は一業一種の企業体の代表者と政府機関の労働省側からの参加も得て、一般の企業が、積適的に中国研修生を受入れ、日本の先進技術を学ばせて行くに当り、何をなすべきか、官民一体の訪中であり、誠に意義あるものであったと喜んでおります。

まず最初に、中国国家経済委員会の企業管理協会を表敬訪問いたしました、会長並びに理事役員の方々の温いお出迎えを受け、中国の現状についての説明がありました。その中で次の点について強調されていたのが印象に残っております。

中国の行っている四つの現代化を促進する為には、**工業生産制の確立とその管理体制**、加えて**人材開発**が最も必要である、という事でした。

既に、各省地区学級班を通じて全国規模で企業別に責任ある主任幹部を養成しており、更に社会事業経験の推進と企業管理協会の機能的拡大を目的として頑張っておりますが、これ等も国外の各団体、企業との交流を積極的に受け入れてこそ

達成出来るものであり、この様な時に日本の各企業代表の方々が、中国研修生受入れの為、訪中された事、感謝しますと、そして経済委員会主催の観迎会となり、日中友好の拡大と両国発展のためにカンペイを重ねた次第です。

次の日、我々は北京重形機械工場を見学致しました。この工場は鉄鋼、水圧加工などが主なもので、特に目に付いたのは発電機用タービンプロペラで、その長さは6mに及び、この加工技術は相当高度なもので、ある団員の工場経営者は、軽工業では台湾、韓国に及ばないが、この重工業分野での実力を高く評価しておりました。工場敷地は27万坪で7400人の労働者が働いており、その医務室には何んと100名もの医師が常勤し、その安全と健康管理に当たっているそうです。従って事故率は0に近いとの事でした。

翌日は各専門分野に分れ、私は北京計算機会社の技術科長、設計科長並びに北京電子代表工業局対外経済処の方々の案内でコンピューターの部品の製造から完成迄の全工程を隈無く見て参りました。今、中国は近代化推進の1つとして、コンピューター部門の開発に力を注いではおりますが、未だその多くを、日本をはじめコンピューター推進国の輸入機に頼らざるを得ないというところです。ここ北京計算機工場で生産されている多くは理工系研究機関、学校又は工場内にある技術学校等の教材として使用されており、各企業においての利用は未だ数少ないものでありました。

中国の広さは日本の26倍あります。そしてそこで行われている漁業、農業の仕事を効率的に進めて行くのに、是非必要なのは気象状況の把握であるのだそうです。この様に最も必要な分野でのコンピューターは輸入機が活躍していました。一方私自身反省しなければならない事なのですが、中国が自力でコンピューター（ミニコン）を作っていること全く認識していなかったのです。更に驚くべきことは私達が30年程前に使用していた電機計算機で真空管が使われていたことです。彼らは真空管の持つ1つの欠点、過熱することを上手に処理し解決していたのです。この様に中国では先

づ、**基本的知識の徹底化**を計り、**工夫**をしそれらのものを踏まえた上で、新しい物を導入しているのです。翻って日本の現状は如何でしょう、理論としての理解は国際レベルに達しているかも知れないが、機械を分解し元の形に復元する能力に欠けてはいないでしょうか、日本の教育の歪を感じずにはいられません。

中国では一人優れているより、**100人が同時に一歩前進**する方を大切にしているのです。これは将来、中国が途轍もない大国へ発展する可能性を秘めていると申せましょう。

次に**労働賃金**について少しふれてみましょう。

労働者の多くは高等中学校を出て各工場に配属され工場内の技術学校で勉強し専門技術の修得が出来るように配慮されているのです。

毎年工場側から採用計画が市に提出され、本人の希望と学力、そしてその企業の近くに住んでいる（職住密着）こと等を基準として決定されるのです。都市の30才ぐらいの労働者の平均給与は¥11,000前後で、一見低賃金の様に感じますが、所得税はなく、健康、厚生年金、雇用保険などは国家又は人民公社の負担となっております。中国では夫婦、共がせぎが建前になっておりますから、月々5,000円位は貯金し、積立てカメラ、テレビ等も手に入れる事が出来るのだそうです。幸いのこと日本のようなローン制度は無いようです。

従来中国の賃金体制は8級制であったようですが、特殊技術者の技術評価を加えて、現在では10級制を取っている企業が増えており、労働に応じた分配の原則が制度化しつつあるそうです。

また、勤務状況、技術力の向上、企業工場への貢献度に従って支給される、所謂ボーナス的な奨励金制度も行われているようです。

さて、次に今回の訪中で最もビックリした事について述べさせて頂きましょう。それは北京コンピュータの工場長とお話しの中で、**貴方の会社と中国との合併会社**を作っては如何ですか、と積極的に持ち掛けられた事なのです。

皆さんの企業にとって、中国は魅力あるマーケティングであろうと思われま

れて頂くと同時に、合併会社を作りたいという、中国側の考え方を理解しておく必要があると思います。最近中国から「日本企業と共同で事業を始めたい」との申し入れが相次いでおり、北京で活発な折衝が繰り返されているようです。

従来、中国が実施してきた外資導入には、**直接借款**、**委託加工**、**生産分与方式**の3つであったのですが、今度、**合併法**を設定し現代化へ更に積極的な姿勢を示したのです。その理由として

① 今中国は資金不足に悩んでいる。これを解消するには、外国からの**直接借款**（資本主義国の金融機関から直接カネを借りること）が一番、手取り早いですが、借りた金はいつれ返済しなければならない、長期に互れば金利もかさむ。

又、**生産分与方式**（開発資金、資材、技術を外国企業が提供し、その見返りとして、石油、石炭、ジュウタン等の生産物の供与で決済する）とか、**委託加工**（外国企業が原材料を中国で加工し、製品は加工賃を払って外国側が引取る）では、相手国に完成品の引き取り義務を与えることになり、あまり期待出来ない。

② 次に技術の転移の問題であるが、中国のように技術者の数が不足し、経験の浅い国では、資金と資材がありさえすれば、すぐに先進工業が育つと云うものではない。それ等を生かすには優れた技術者と多くの熟練工、卓越した経営管理者が必要である。一口に技術といっても、それを身につけるには長い期間の訓練とカネが掛る。そこで**外国企業との合併**を計り、一緒に会社を経営すれば知らずのうちに技術を覚え、経営のやり方を学び取ることが出来るであろう、との事であるようです。

この**合併法**とは、外国の企業と互恵の原則に基づき中国の公司、企業と共同で合併企業を作ること認め、そこでの投資利潤、その他の合法的権益を保護するという事です。その具体的方法として、外資の出資比率を25%以上とし、その比率にもとづいて利潤を分配し、危険を負担し合い、取締役会の議長（社長に相当）は中国側が当り、合併企業は外国の金融機関から直接資金を調達する

ことが出来る、というもののなのです。

このほか、㉔ 合併企業の関係者は現金、現物、工業生産権で投資することが出来、また中国の共同経営者の投資には用地使用権を含めることが出来る。㉕ 合併企業の得た粗利益は中国の税法に従って所得税を納めた後、積立金、従業員への奨励金、福利厚生など差し引き純利益は資本に応じて分配する。㉖ 合併企業は、利益が上り始めてから、最初の2～3年間は所得税の減免を申請することが出来る。㉗ 外国の出資者が得た純利益を中国国内での再投資に用いる場合は、すでに納めた所得税の払い戻しを申請することが出来る。㉘ 外国の出資者は、賃金及びその他の資金を、中国銀行を通じ、外国通貨管理条例に従って国外へ送金することが出来る。㉙ 合併企業が必要とする原材料、燃料、プラント等は可能な限り中国国内で買付けること。㉚ 合併企業の契約期間は、それぞれの業種によって、また状況によって共同経営に当る当事者が協議し決めること等々を歌ってあるのです。

以上、中国の現況、特に合併企業についての意欲、中国側研修生を受け入れて頂き、十分な技術指導を得て中国に帰国した後、彼らを中国側の指導者として、**合併会社設立を推進して行きたい**という中国側の立場を理解すべき事と思いました。そして目先の利潤を追うことなく、じっくりと腰を据え、我々の経営を通じて、中国の経済発展に協力するという、息の長い思いやりのある姿勢こそ必要であると感じた次第であります。

どうぞこの点をご考慮の上皆さんの企業も進んで中国側と協力し共に栄えて頂きたいと存じます。時間も参りましたので、ご清聴を感謝します。

スマイルBOX

東京港南RC 上坂会員、一時を御世話になります。

横浜鶴峰RC 山瀬会員、初めてお伺い致しました。今後共よろしくお願い致します。

大和RC 大矢会員 だいぶ暖かくなりましたが、皆様お変わりなく、おすごしていらっしゃいますか、本日もよろしく願いいたします。

大和RC 道岸会員 度々御世話様になりまして、大和RC 北原会員、宜しく願い致します。

大和RC 村上会員、春も間近です。お風邪を召しませんように、本日も宜しく！

大和RC 村田会員 又お世話になります。

竹本会員 誕生日のお祝いありがとうございます。これからも頑張っていきたいと思っておりますので、御指導の程お願い致します。

有沢会員 入会して一年たったわけですが、当時の私と現在の私と此べて進歩があったでしょうか？考えさせられます。ありがとうございました。

辻会員 スカウト会館建設に伴う募金運動を展開しておりますので、皆様方の青少年育成に是非一投をお願いします。

伊藤(英)会員 健康に気を付けて、毎日毎日をくいをのこさずおすごして行きたいと思えます。

藤田会員 先週は他用が出来、欠席致しました。

